



発行：NPO 法人シャローム事務局

〒960-1241 福島県福島市松川町字東原 17-3  
TEL / FAX 024-567-5322Web http://www.nposhalom.net  
Email info@nposhalom.net

発行責任者：大竹静子

## 平成30年度 シャローム定時総会

定期総会日程決まる  
五月二十六日(土)

平成三十年度の定時総会が五月二十六日に開催されます。まちなか夢工房二階で午後一時三十分からの予定です。議案は、例年通りの年度報告と計画で、平成二十九年度の事業報告・決算報告と平成三十年の事業計画と収支予算となります。

平成二十九年度の事業報告の概要から一年間の主な活動を振り返ってみました。

### ① ひまわりプロジェクト

前年同様約二五〇件の参加団体を数え、特に団体での参加が増加し、発送した種の量は一・五倍となりました。団体から現地の参加者に配布される量が増加していることから、地域ぐるみ、学校等、底辺での広がりを感じます。しかし、回収された種の量は一・七割にとどまり、収穫にたどり着かないケースが多いことが課題となっています。

参加団体との交流を深め、福島の実状を伝える「子どもひまわり大使」。県の助成を受けながら、今年も派遣事業が実施されま

した。参加した子どもたちの発表内容や感想文、現地での受け入れ支援者の報告等が報告書の中に収録されています。交流を通して得られる成果を直接感じる事ができます。是非一読ください。

### ② ひまわり感謝祭

シャロームの一年間の活動を総括するイベントとして、今年度も十二月二日、A O Zで開催されました。

その内容は、①「ひまわりプロジェクト」栽培報告展、②ひまわり栽培相談会、③子どもひまわり大使報告会、④子どもひまわり大使写真展、⑤週末保養夏休みプログラムパネル展、⑥ふくしま測定プロジェクトパネル展、⑦飯館村の今を考えるプログラム、⑧シンポジウム「生きる力、文化の力」、⑨たんぼの家「エイブルアート」展、⑩第二十一回「共に生きる仲間たちのコンサート」、⑪NPO・施設等の展示即売と、盛り沢山の総合イベントとなりました。

奈良県の「たんぼの家」理事長・播磨靖夫氏を招いてのシンポジウム講演録は先の報告書に収録されています。市民による障がい者支援の先駆者でありNPO法の生みの親でもある播磨氏の取組みは、シャロームのこれからの活動に多くの示唆を与えるものとなっています。

### ③ 災害支援事業

震災後の七年間、状況変化に合わせた災害支援事業が継続されています。福島の未来を担う子どもたちの健康と他の地域を学ぶ保養プログラム、身近な公園等の放射線量測定によるリスクの見える化で、自らが危険と安全を確認できる事業を展開しています。生活現場を共有する人たちが、当事者意識を持ちながら積極的に取り組むことで、防災対策を通しての新たな地域再生への一助となるものと考えています。

飯館村でのパソコン教室とそこから発展したインターネット放送局は、帰村後の村において、今後その重要性が増していくものと考えられます。飯館村に定着にできた活動が、新たなコミュニティ形成の支援に向けての一步を歩み始めています。

④ ユニバーサルデザイン ユニバーサルデザインの先駆者でもあるたんぼの家・播磨氏の協力により、ひまわり感謝祭で「エイブル・アート展」が開催され、楽膳との交流も深まり新たな動きが芽生えた一年となりました。パラリンピックへの動きとともに障がい者の社会参加の機会が大きく広がっていく中で益々その役割が期待されます。

### ⑤ 教養講座「地元学を考える」

今年度は、第一六〇回〜一七一回までの十二回を開催いたしました。毎月一回開催で十四年間一回も休むことなく継続されています。毎回バラエティーに富んだ講師が、身近な視点で話をしてくださいます。身の回りに何気なく居る人が、こんなにも魅力的な能力や知識を持っていることを知る良い機会となっています。地元の魅力を感じる一つのきっかけは素晴らしい人を知ることだと思えます。身近に友達目線で質問し話し合える、気軽に楽しめる講座としてこれからも続けていきたいと思えます。

今年一年間のご支援・ご協力に感謝いたします。総会を新年度に向けての意見交換の場としたいと考えています。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

NPO 法人シャローム  
代表 大竹 静子